

6. 事業内容	当事業は、対象地域のすべての幼稚園・小学校の教師や親の能力強化・啓発およびインフラ整備を通して、少数民族の子どもたちの幼稚園から小学校への円滑な移行を促し、学習環境の改善を目指す。 当事業は、第1期には幼稚園・小学校の教師の能力強化、親や地域住民を巻き込んだ学校を支援する地域ネットワークづくりに取り組んでいる。今次の第2期では、これらの活動をさらに深化させるとともに、「教師間の学びあい」の質の向上に向けたツール作成を開始する。また、子どもにやさしいインフラ環境の整備も引き続き実施する。第2期に予定している活動は、以下のとおり。 1. 幼稚園・小学校の教師の能力強化【対象：教師約400人】 (参考資料3. 教師トレーニングリスト) 幼稚園と小学校それぞれに形成した教師および各省・郡の教育訓練局職員ら約30名からなるコアチームのメンバーを引き続き育成する。コアチームメンバーは専門家からトレーニングを受けた後、トレーナーとなって学校レベルの実地研修を行う。また、日常的に授業観察を行い、授業内容や子どもの学びを継続して確認するとともに教師への技術サポートを行う。 1. 1 年間計画ワークショップ（対象：幼稚園・小学校） 対象校の校長や教師、各省・郡の教育訓練局職員の当事業への参加を促進し、より良い計画をつくることを目的に行う。提携団体であるプラン・インターナショナル・ベトナム職員は、講師およびファシリテーターの役割を担う。幼稚園・小学校のコアチームを対象に、事業開始時に行う。 1. 2 教師間の学びあいトレーニング（対象：小学校） 「教師間の学びあい」は、小学校教師が授業観察力や学びあいのスキルを向上させ、自分たち自身で授業の質を継続して改善していける状況を作り上げることを目的に行う。トレーニングは、日本人教育専門家を派遣して、小学校のコアチームを対象に2回行う。また、第1期に支給したビデオで撮影した授業映像を大きく映し出して共有し、効果的な学びあいを行うため、第2期では全基幹小学校11校にプロジェクターとスクリーンを支給して活用方法を指導する。 さらに、ベトナム人教育専門家を対象地域に派遣し、学校レベルでの実地研修を各郡で2回ずつ行う。トレーニングに参加した教師は、後日各校にて授業案を共有するための資料を作成し、学びあいに役立てる。 1. 3 教師間の学びあい活動地間研修（対象：小学校） 先行事例から学ぶ機会とするため、過去の事業で教師間の学びあいをすでに導入しているバクザン省にコアチームを派遣し、先行して取り組む小学校の教師とともに学びあいを実践する。 1. 4 児童参加型授業トレーニング（対象：小学校） 少数民族の子どもたちの理解を助け、学習効率を上げるため、児童参加型授業を促進する。小学校のコアチームを対象に2回行う。トレーニングに参加した教師は、後日各校にて児童の授業理解を促進するための補助教材を製作し、活用する。 1. 5 ベトナム語教育トレーニング（対象：幼稚園、小学校）
----------------	---

第2言語としてのベトナム語教育を改善することを目的として行う。幼稚園のコアチームと小学校のコアチームそれぞれを対象に1回ずつ行う。

1. 6 読書推進トレーニング（対象：小学校）

当事業で支給する児童用図書が適切に管理され、有効に活用されることを目指す。コアチームを対象とするトレーニングは各郡で1回ずつ、児童を対象とするトレーニングは各基幹小学校（11校）で1回ずつ行う。トレーニング後、各校で子どもが中心となり読書推進活動を展開する。

1. 7 カリキュラム調整ワークショップ（対象：小学校）

ベトナム語の習得に困難を抱える少数民族の児童の現状にあわせて、全国統一のカリキュラムの内容を調整する。ワークショップは、1・2年生の全教師を対象に各郡で1回ずつ行う。

2. 教師間の学びあいツールの作成

2014年度よりベトナム全国の小学校に導入された新しい「教師間の学びあい」の質の向上を通して、少数民族の児童に適した教育制度づくりに貢献する。

2. 1 教師間の学びあいガイドラインの作成

教師間の学びあいを実施する上で参考となる、実践的ガイドラインを作成する。教育専門家は事前に対象校の現地調査を行い、少数民族地域の現状や教師の意見を踏まえたガイドラインを作成する。第3期には補完教材となる事例紹介ビデオも作成し、ガイドラインとあわせて活用方法を指導する。

3. 学校を支援する地域ネットワークづくり【対象：約270人】

3. 1 地域教育推進ワークショップ（対象：幼稚園、小学校）

幼稚園・小学校の連携を促進し、学校を支援する地域活動を促進することを目的に行う。第1期には、各コミュニティ（9コミュニティ）に幼稚園・小学校教師、保護者、住民リーダー、教育訓練局職員ら約30名からなる教育推進委員会を設立。第2期もこの委員会を対象に、子どもの教育環境の向上に向けた行動計画づくりのワークショップを各コミュニティで1回ずつ行う。ワークショップ後、教育推進委員会は定期的に会合を行い、行動計画を実行に移す。

4. 子どもにやさしい教育環境の整備【対象：子ども約5,500人】

4. 1 教室建設および教室備品の支給（対象：幼稚園、小学校）

7教室の建設および備品支給を行う。ライチャウ省シンホー郡カンティ2小学校の3教室、同郡タサン2幼稚園・小学校の2教室、コントゥム省コンブロン郡ダクアン幼稚園・小学校の2教室を建設する。いずれの対象校も現在木造で雨風を十分に防げない上、劣化が進み、子どもたちにとって危険な状態となっている。

（参考資料4. 教室建設対象校の状況、5. 対象地域の写真）

4. 2 衛生・給水設備の設置（対象：幼稚園、小学校）

前述のすべての建設対象校3校において、男女別トイレと給水設備を設

	置し、教師・子どもに使い方や維持管理を指導する。(参考資料4. 教室建設対象校の状況) 4.3 図書の支給(対象:幼稚園、小学校) 子どもたちが読書を通してベトナム語力を向上させ、知識を豊かにできるよう、すべての基幹幼稚園(10園)・小学校(11校)に児童用図書を支給する。図書の管理方法や活用方法は、1.5や1.6のトレーニング内で指導する。 当事業は、「持続可能な開発目標(SDGs)」の目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」、ターゲット4.1、4.2、4.5、4.a、4.cの達成に寄与するものである。 裨益人口 直接裨益人口:6,263人(対象9コミュニティの幼稚園・小学校に通う子ども、幼稚園・小学校教師、教育訓練局職員、教育推進委員会に参加する保護者を含む地域住民) 間接裨益人口:26,760人(対象9コミュニティの全人口)
7. これまでの成果、課題・問題点、対応策など	①これまでの事業における成果(実施した事業内容とその具体的成果) 第1期前半では、主に以下の事業内容を実施した。 - 各種教師トレーニングを実施し、268人の教師が参加。教師の教え方が向上し、子どもたちが以前より授業に参加できるようになった。 - トレーニング後、基幹小学校11校が各2回の学びあい公開授業を実施。教師は授業観察で以前より子どもの学びに注目し、教師間の学びあいで積極的に意見交換をするようになった。 - 各種教師トレーニングを通して、対象2省の教師がお互いに学びあい、改善策を提案しあう姿勢が見られるようになった。 - 対象9コミュニティのうち、4コミュニティの基幹幼稚園と小学校に児童用図書を支給した。これにより、1,586人の園児・児童が楽しみながらベトナム語を学ぶことができるようになった。 ②これまでの事業を通じた課題・問題点 - 各種のトレーニングの定着度合が、教師や学校によって異なる。 - 年度ごとに児童数も変化し、学校を取り巻く環境も絶えず変化している。 - 教室建設対象地域において、雨や道路建設の影響により、建設の開始が予定より1~1.5ヶ月遅れた。 ③上記②に対する今後の対応策 - 教師の知識やスキルに応じて、トレーニング回数の追加、教育専門家による直接指導の強化などに取り組む。 - 教師や教育訓練局職員との話し合いを頻繁に行い、環境の変化に柔軟に対応する。 - 第1期は建設がすでに始まっており、大幅な遅れなく事業期間内に建設を終えられる。第2期は不測の事態に備え、余裕をもった建設スケジュールを組んでいる。 ④「持続可能な開発目標(SDGs)」の該当目標の視点からも言及してください。

	SDGsの目標4「すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」のターゲット4. 1、4. 2、4. 5、4. a、4. cの達成に寄与している。
8. 期待される成果と成果を測る指標	1) 幼稚園・小学校の教師の能力強化 教師トレーニングへの参加を通して教師の能力が向上し、より少数民族の子どもに適した参加型の授業が行われる。 ● 教師間の学びあい公開授業の実施回数： 全基幹小学校で公開授業が実施され、授業観察や教師間の学びあいを通して、継続して授業の質が改善される（第2期：7回）。 ● 教師間の学びあいの質の向上： コアチームメンバーが、授業観察の方法を改善し、子どもの学びを分析できるようになる（第2期：80%）。 基幹小学校で、教師が授業内容や子どもの学びについて積極的に意見交換をするようになる（第2期：11校中10校）。 ● 子どもが授業に参加する機会を増やした教師の割合： 小学校教師が、グループ学習やペア学習など授業での子どもの参加機会を増やす（第2期：全287人のうち90%）。 ● ベトナム語授業の内容を改善した教師の割合： 幼稚園・小学校教師が、ベトナム語授業を少数民族の子どもに適した内容に改善する（第2期：全433人のうち90%）。 幼稚園教師が、ベトナム語授業の中で週に3冊以上の児童用図書の読み聞かせを行う（第2期：全146人のうち90%）。 ● 読書推進活動を実施した学校数： 小学校で子どもを中心とする読書推進活動が実施される（第2期：全基幹校11校および分校5校）。 ● カリキュラムを調整した小学校教師の割合： 小学校の1・2年生担当教師が、ベトナム語の習得に困難を抱える少数民族の児童の現状にあわせて、全国統一のカリキュラムの内容を調整する（第2期：全119人のうち100%）。 【確認方法】 ・ トレーニング報告書、参加者リスト ・ 活動のモニタリング、授業観察 ・ 教師・教育訓練局職員インタビュー、アンケート ・ 子どもの聞き取り調査 2) 教師間の学びあいツールの作成 「教師間の学びあい」の質の向上のためのツールが完成し、その活用を通して、他地域でも少数民族の児童に適した授業が行われる。 ● 「教師間の学びあい」の質の向上のためのツール： 対象地域の学校の現状や教師の意見を取り入れた、教師間の学びあいの実践的ガイドラインが完成する。 【確認方法】 ・ ガイドラインの確認 3) 学校を支援する地域ネットワークづくり 教育推進委員会が各地で教育推進のための活動を展開し、幼稚園・小学校の連携強化、教育に対する親の理解・協力の向上につなげる。

- 教育推進活動を行った委員会メンバー数：
教師や保護者からなる教育推進委員会が、子どもの教育環境の向上に向けた活動を各地で展開する（第２期：２７０人）。

【確認方法】

- ・活動のモニタリング
- ・教師インタビュー、アンケート
- ・保護者の聞き取り調査

４）子どもにやさしい教育環境の整備

教室・衛生施設の整備や図書支給を通して、幼稚園・小学校の学習環境が改善され、子どもたちの学習効率が向上する。

- 安全な教室で授業を受ける子どもの数：
第２期対象３校で現在０人→ ７３人
- 学校で適切な衛生設備を使う子どもの数：
第２期対象３校で現在０人→ ７３人
- 学校図書を活用する子どもの割合：
小学校児童が、週に１冊以上の児童用図書を読む（第２期：全３，４７３人のうち８０％）。

【確認方法】

- ・活動のモニタリング
- ・教師インタビュー
- ・子どもの聞き取り調査